

↑ 秋晴れのもと、県下各会場では熱戦がくりひろげられ、津島大会々長からは「これまでのうちで最良の国体」と激賞された。



↑ 天皇、皇后両陛下のご臨幸を仰いで……



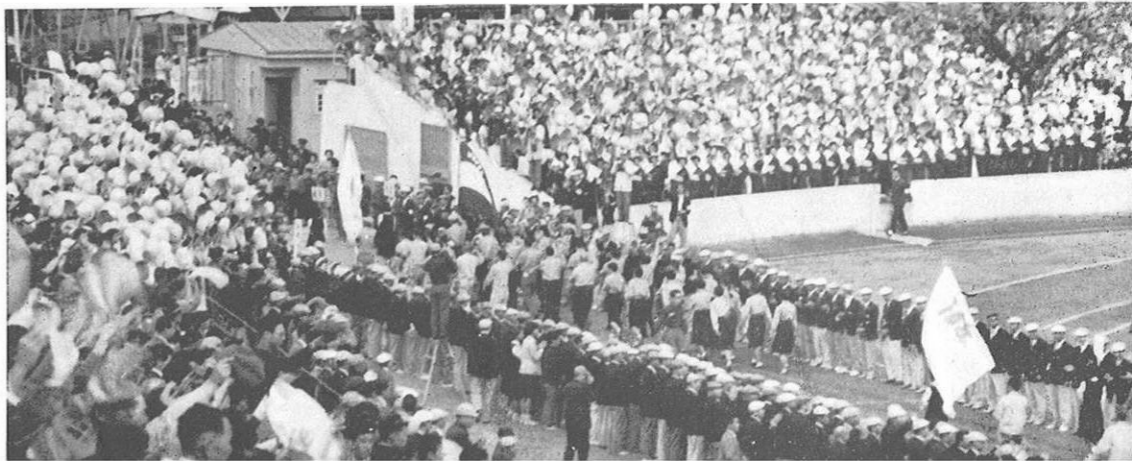
↑ マスゲームもはなやかに……



この国体の成功で、県民は「やればできる」という自信を得た。これは今年最大の収穫であった。

成功裡に終つた
“第15回国体”

↑ サヨナラ、さよなら、また逢う日まで……



新生活運動

今年 は 山内地区 (鹿央村) 県で中央表彰に推せん

新生活運動中央表彰に、今年度は鹿本郡鹿央村山内地区が熊本代表の優良地区として推せんされることに、このほどひらかれた選考委員会で決まった。第一回(三十三年度)は鹿本郡植木町宝田地区、第二回(三十四年度)は若北郡田浦町洲崎地区が選ばれており、こんどが三回目。

☆☆☆☆☆☆☆☆

山内地区は熊本市の北方二十四キロ、交通機関としては産交バスがたった一本だけ。町村合併までは山内村と呼ばれていた。その名が示す通り、国見山の山ふところ、六つの部落から成りたつている山村である。戸数三百三十戸、人口千八百四十五人、総面積十二・三平方キロ、このうち水田二十七ヘクタール、畑百八十九ヘクタール、林野四百九十二ヘクタール、宅地その他百二十六ヘクタールに別れている。水田に比べ林野が四倍もあるのが目立つ。

今日までの歩み

経済的にも文化的にも恵まれない山内地区——。この貧弱な村を世間なみの村にするにはどうすればよいのか——住民が腕を組んで考えているとき、新生活運動の提唱がこの山間の村にも伝わつてき

結婚式も公民館で

それは昭和二十八年のことだつた。これだ！と、早速、村の公民館が中心になつて「山内村新生活運動実践要領」を決定、先ず冗費節約のための、冠婚葬祭の簡素化から運動が始まつた。それから七年、いまでは食生活の改善や姑学級の開設にまでこぎつた。公民館の一安主事の指導もさることながら、運動の推進役となつたのは婦人会であり、会長の益田小夜子さん(三十四年まで)と城戸美穂さんの二人である。

山内地区の結婚式を見てみよう。式はすべて分館長が司会にあたる。料理は一人前二百円で婦人会員の手料理だ。献立をのぞくと、折詰め、赤飯に吸物、刺身すのもの各一皿で、酒は〇・三六リットル(二合)。客は四方隣りと親類、友人で



<山羊を飼つて栄養改善の一助とした>

三十人以下に制限される。祝宴は勿論一日で終り、従来のような三日続きの馬鹿さわぎは全く姿を消した。新郎新婦が祝宴の途中で組内の挨拶回りをすませるのも合理化の一つである。晴れ衣は殆んど貸衣装ですませるか親類や知人のものを借りる。結婚金は二万円以下、費用はしめて婿側五万円、嫁側十万円程度。最近、一泊二泊の新婚旅行に出かけるものがぼつぼつあるという。新婚旅行などは都会人だけと思ひこんでいた従来からすると、全く楽しい話として快よい。

食生活の改善へ

昭和三十三年「栄養及び食生活の改善」指定地区となつてから、役場、農協、保健所、農業改良普及所などの協力で、活発に改善運動がもたらがった。

食品群別摂取状況を調べたところ、緑黄色野菜、動物たん白、カルシウムの不足を発見したので、有色野菜の計画栽培、大豆菜類の増殖、鯨肉その他魚介肉類の共同購入、山羊の導入などをはかつた。

一方、推進員二十五人に毎月一回の栄養学、熱量の計算などを専門教育。各家庭では戸主の日、主人の日を設けて家庭全員の食物に対する協力を求めた。寄生虫検査も年二回実施、また家計簿グループ、鶏卵グループなどつくれた。一カ月の平均副食費は六百円、一日二十四円で栄養料理が食べられるように苦心している。

納税も一〇〇%完納

姑教育のため月一回の姑学級もひらいている。山内地区の納税はさる三十年から毎年一〇〇%になつた。新生活運動による地区住民の総合された経済力の向上を示すバロメーターである。

今後、財布は婦人会員に、を目標にさらに高度な生活設計をたてようと、婦人会でははり切つている。

(県新生活運動協議会)